

呼吸器アレルギー内科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	慢性好酸球性肺炎の診断および治療に関する後ろ向き調査
研究機関の長（試料・情報の管理責任者）	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	（所属）呼吸器・アレルギー内科講座 （職名）教授 （氏名）伊藤 理
研究の対象となる方	2010年4月から2023年6月までに【慢性好酸球性肺炎】と診断された患者さん
研究期間	研究実施承認日 ～ 2030年3月31日
研究目的及び利用方法	〔研究目的〕 慢性好酸球性肺炎は、肺の中に好酸球の浸潤を認める原因不明の疾患です。通常ステロイド薬への反応が良いことが特徴ですが、一方で統一された診断の基準がなく、発症頻度などの疫学情報が乏しい状況があります。また、ステロイド薬を減らすことによる再発が多い疾患で、ステロイド薬の長期使用が避けられない難治例も少なからず存在します。 近年、重症喘息やアレルギー性鼻炎、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎などに対して、生物学的製剤が使用され、その有効性が明らかとなっています。これらの生物学的製剤は、症状の改善だけではなく、好酸球が原因の病気の改善や経口ステロイド薬の減量、中止といった効果をもたらし、結果としてステロイド薬使用による副作用を減らすことにつながっております。ステロイドを中止することが難しい難治性の慢性好酸球性肺炎においても、現在は適応されておりましたが、生物学的製剤による治療が新たな治療選択肢となりうる可能性を示しています。 本研究の目的は、慢性好酸球性肺炎の診療実態を明らかにすることです。また難治性の慢性好酸球性肺炎の治療経過と、生物学的製剤使用例の臨床経過を調査することで、難治性好酸球性肺炎の新規治療の創出につなげる基礎データを作成することを目指します。 〔利用方法〕 本研究では、研究の同意が得られた施設にて慢性好酸球性肺炎と診断された患者さんのカルテデータを調査させていただきます。カルテデータについては、匿名化を行い個人情報の保護を行います。 〔外部への試料・情報の提供〕 試料・情報は個人が特定できないようにし、記録媒体により研究主機関へ提

	供します。集積したデータは名古屋大学病院にて、名古屋大学病院の研究責任者が特定の関係者以外がアクセスできない状態で保管・管理します。 〔外部への提供開始日〕 研究実施承認後
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	試料：非該当 情報：年齢、性別、身長、体重、喫煙歴、併存症、既往症、処方薬、病歴、症状、治療歴等の臨床経過情報、血液検査結果、肺機能検査、胸部 CT、気管支鏡検査（気管支肺泡洗浄液、肺生検の病理所見）結果 等
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻病態内科学 教授 石井 誠
試料・情報を利用する学外の者	名古屋大学医学部附属病院 呼吸器内科 共同研究機関 （順次追加予定） 豊橋市民病院 独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター トヨタ自動車株式会社 トヨタ記念病院 公益社団法人日本海員掖済会名古屋掖済会病院 公立西知多総合病院 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 愛知県厚生農業協同組合連合会 安城更生病院 独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 公立陶生病院 藤田医科大学病院 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 一宮市立市民病院 独立行政法人国立病院機構 相模原病院 既存資料・情報の提供のみを行う機関 独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2028 年 3 月 31 日までに電話等により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学医学部 呼吸器・アレルギー内科講座 担当者：（職名）教授 （氏名）伊藤 理 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311（内線 23500）